

セントロ・デウ・インテルプレタソン・ダ・クルチャーラ ・セファルジータ・ド・ノルデストゥ・トランスモンタノ (Centro de Interpretação da Cultura Sefardita do Nordeste Transmontano) (ノルデストゥ・トランスモンタノのセフ アルディ文化解釈センター)

について



写真: Câmara Municipal de Bragança

ノルデストゥ・トランスモンタノのセファルディ文化解釈センターは、トラシュ・オス・モンテシュ (Trás-os-Montes) 地域に住んでいたユダヤ人コミュニティの経験の記念碑として設計されたスペースです。その記憶は今に至ってもまだ生きています。ブラガンサの街の歴史ある中心部に位置し、建築家ジョアキム・ポルテラ (Joaquim Portela) と共に、ブリツカー賞を受賞した建築家であるソウト・モウラ (Souto Moura) によって再建された建物の中にあります。

展示内容は、この地域のセファルディのユダヤ人の経験についてのテーマ別の歴史科学から得られた情報を再考することを目的としています。それは、この地域の経済発展とともに中世に始まり、近代の重要な帆船金融王朝時代を経て、最も多様な知識分野に専念した人々にスポットを当て、宗教迫害に終わります。

博物館の入り口には、小さな黒丸でできた大きなオリーブの木があり、その中にはユダヤ人のコミュニティがあった地域が刻まれています。

2階では、市場、道路、生産・取引された製品など、この地域のユダヤ人の社会経済的な営みをさまざまな視点で展示しています。センターのこのエリアには、民族離散の始まりも含まれています。

このスペースには、ブラガンサの最も著名な人物の何人かとそこで生まれた家族の末裔の記念碑もあります。例えば、ポルトガルで最も輝かしい科学者の1人であるジャコブ・デウ・カストロ・サルメント (Jacob de Castro Sarmiento) (1691-1762年)、神学者で思想家でもあるトマス・ロドリゲス・ペレイラ (1605-1699年頃)、トゥールーズ大学の医学講師で神学者でもあるバルタザール・オロビオ・デウ・カストロ (Baltazar Oróbio de Castro) (1620-1687年頃) などがいます。

恐怖は上層階のコレクションの焦点で、異端審問の尋問の様子を再現展示しており、画家グラサ・モライシュ (Graça Morais) によるずばり「オ・メード (O Medo)」(恐怖)と題した絵画を展示しています。

問い合わせ先

Rua Conselheiro Abilio Beça 103 5300-011 Bragança

電話： +351 273 240 022
Eメール: cicsefardita@cm-braganca.pt

特色とサービス

ガイドツアー

バリアフリー案内

入口へのバリアフリー経路

- 全部

バリアフリー入口

- 全部

特別なお手伝いが必要な方の受付エリア

建物内のバリアフリー通路

- 一部

バリアフリーのエリア/サービス

- 身体障害者用設備

バリアフリー情報

- 案内板
- 凡例
- 双方向型・視聴覚資料を用いた発表
- 触覚的探索用のアイテム